



# 本町だより

横浜市立本町小学校 令和4年 9月30日 発行 第598号



## 「ふれあい本町」秋物語

校長 田川 斉史

10月は、すべての学年が校外学習(遠足、宿泊体験学習、修学旅行)に出かけます。

4年生以上は初めての「宿泊」。4年「上郷森の家」、5年「三浦ふれあいの村」、6年「箱根高原ホテル」

、各施設との感染予防対策の打合せと目的地、見学地の下検分を夏休み中に行い、企画しました。活動を通して、自分をいかに表現し、コミュニケーションをとるか、集団の中で体験するでしょう。これからも、子どもたちのためになることは、積極的に取り入れたいと思います。しかし、ただ新しいことをするのではなく、今までの行事、生活科や総合的な学習など、継続的な取組の価値を受け止め、そこから新しいものを創り出したいと思います。教職員がいつも考えているのは、子どもたちの将来を見据えた教育活動をしたいということです。その場限りでは、何の役にも立ちません。中学校進学、高校、さらに社会…へと子どもたちが進んでいくのに必要な力をつけることが大切だと考えています。

## ♪もしもしカメよ、カメさんよ♪



ウサギは足が速いのが自慢。歩みの遅いカメをからかって、かけっこをすることになりました。当然、ウサギはリードを広げ、カメの姿はすっかり見えなくなりました。

ウサギは安心してひと休み。つい眠ってしまいました。

その脇をカメがのろのろと追い越していきました。ウサギがはっと目を覚ました時はもう遅く、カメがゴールしていました。

おなじみ「ウサギとカメ」のお話。高い能力や才能を持っていても、その上にあぐらをかいて怠ければ、地道に努力を積み重ねる人に追い抜かれてしまう。どんなにゆっくりでも、堅実に努力したものが最後は勝つという教訓です。この話で、私達は油断大敵、気を抜いてはいけない。遅くとも一步一步しっかりと努力することなどを学びました。

ところが、この物語には、もう一つ教訓が隠れています。それは、「ウサギはカメを見ていた。カメはゴールを見ていた。」というもの。つまり、ウサギは競争相手であるカメの動向を気にして油断してしまい、対するカメは、ウサギを気にせずゴールだけを見て、ひたすらゴールに向かって歩き続けたことで勝利を得ました。つまり目的への意識の違いが勝敗を分けたのです。ライバルや周囲のことを気にせず、ひたすら目標に向かって努力することの大切さも示した教訓と言えるでしょう。

さらに、この話もストーリーをちょっと変えるとまったく別の展開が…。では、もうひとつの「ウサギとカメ」。

ウサギとカメがかけっこをすることになりました。当然、ウサギはリードを広げ、カメの姿はすっかり見えなくなりました。ウサギは安心してひと休み。つい眠ってしまいました。

そこにカメがやってきました。ウサギが眠っていたので、カメはウサギを起こしてあげました。

「ウサギさん、さあ起きて！ いっしょに走ろうよ。僕一人で走ったってつまらないからね」

ウサギはカメに感謝し、残った距離をカメといっしょに走りました。

いっしょに走るの楽しいし、それにカメはウサギのスピードに追い付こうとがんばるので、前よりずっと速く走れるようになりました。



競い合うという要素に、助け合うという要素を加えると、楽しい上、自分のレベルアップにもつながる、というのがもうひとつのストーリーです。奢らず高ぶらず、カメの声かけに感謝し、やさしく手を携えるウサギ。自分の特性を理解し、決してあきらめず前向きに生きるカメ。物語からだけではなく、あらゆる物事からも「生き方」を学べると感じました。

